

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年3月24日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105180
法人名	有限会社 ソフィア・インター・ナショナル
事業所名	グループホーム 山田の里
所在地	鹿児島県鹿児島市山田町44番地3 (電話) 099-264-0850
自己評価作成日	平成26年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営推進会議を定期的開催して、利用者やホームの状況を報告し、話し合いで出された意見は記録し、サービス向上に活かしている。また年間の行事で家族の参加の呼びかけで協力をもらうなど工夫している。屋外レクや、運動会など家族を交えての食事はいつもと違う笑顔が見れたり、また、一人ひとりの思いや意向を受け止め大切にしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成26年3月14日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・ホールは、エアコンや加湿器などで温度や湿度が調整され、快適空間となっている。
- ・一人ひとりの思いや考えを把握し、その人らしく過ごせるように対応している。
- ・理念は職員で考え、みんなで意識を持つ為に、玄関やリビングに掲げると共に唱和している。
- ・地域住民との交流は、町内会に入り、小学校で行なわれる校区運動会や文化祭などの行事に見学に行ったり、中学生や高校生がボランティア活動で、利用者とはふれあっている。
- ・誕生会のときなど、家族を招待して、手作りの食事を出して一緒に楽しんでいる。便りを家族へ毎月送り、利用者の表情が家族に写真と文章で伝えられている。家族との信頼関係ができています。
- ・防災訓練に行政や消防団・地域住民など、多くの人が参加し、防災意識を高めている。
- ・身体拘束廃止委員会や感染症対策委員会等の委員会を通して、外部や内部の研修や勉強会で職員の資質向上をめざしている。
- ・利用者が一番楽しみにしている食事は、行事食や好みの朝食の工夫がなされ、食材の皮むきや配膳・下膳を職員と一緒にしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念に基づき入居者の個人目標へ繋げるように取り組んでいる。朝の申し送り時に唱和し共有している。又、毎月1回の山田の里便りにも理念を記載しご家族様にも周知していただくように取り組んでいる。	玄関に理念を掲げ、職員は朝の申し送り時に唱和し意識を高めている。職員会議では理念の振り返りやケアへの反映を確認しながら共有を図っている。毎月発行の便りにも理念を掲載している	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加（運動会・文化祭等）をしている。地域の一員として町内会に加入している。近隣の住民の方とも散歩や朝夕の声かけや季節の野菜等もいただく間柄である。	自治会に加入し、校区の運動会や文化祭の見学に行っている。中学生や高校生のボランティアの受け入れを行っている。散歩時の近隣住民との挨拶やコミュニケーションを楽しんでいる。地域から野菜などの差し入れもある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ご家族様には、認知症の理解や支援の方法の情報提供を行なっている。ボランティアや実習生の受け入れをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回、グループホームの取り組みや状況報告して、意見を頂き、サービス向上に繋がっている。</p>	<p>会議は定期的開催されている。ホームの現況報告や外部評価結果報告・インフルエンザなどの感染症対策や認知症について話し合いをしている。防災訓練を兼ねて運営推進会議が行なわれることもある。出された意見等を大切にしてサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市町村へ必要に応じて随時連絡している。運営推進会議に地域包括支援センターの職員に出席を頂き、情報提供、意見交換を行い協力を得ている。</p>	<p>市担当者とは相談や申請で行政に直接出向く機会が多く、報告や相談をして連携を密に取っている。市主催の研修会にも出席して、気軽に相談できるようになっている。地域包括支援センター職員とも相談や連携を密に取っており、協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>毎月の全体会議にて勉強会を実施し、ケアの向上に反映出来るように取り組んでいる。入居者の方が、1人で外出されそうな様子の時には、後から見守りをして声をかけるように取り組んでいる。</p>	<p>「身体拘束はしない」を基本に身体拘束廃止委員会で、身体拘束禁止の対象となる具体的な行為について勉強会を重ねている。外部研修にも参加して意識を高めている。日中、玄関の鍵はせずに自由に入出りできるようになっている。外出したい利用者は、自然に寄り添いながら支援をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>毎月の全体会議にて勉強会を実施し、ケアの向上に反映出来るように取り組んでいる。市町村が行なっている研修会にも参加し皆で研修内容を共有出来るように施設の研修にも取り入れるようにしている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在、権利擁護を活用されている方はいない。成年後見制度の研修会にも参加して、すべての職員にも研修内容を説明している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時は、契約書と重要事項説明書に沿って説明を行い、ご家族の方の疑問や不安な点を尋ね理解して頂けるよう対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者、ご家族には、運営推進会議の委員として、参加してもらって意見や要望等を聞いている。玄関に意見箱を設置し、重要事項説明書、山田の里便りに苦情相談を受け付けている事を明記し、積極的にサービス苦情を受け付けている。苦情があった時には運営推進会議でも説明している。	利用者とコミュニケーションを大切にして、入浴や食事の後などのリラックスしている時などに思いを聞いている。家族からは、面会時の声かけや誕生会や運動会に家族を招待して手作りの食事を提供し、会話をしながら意見や要望を聞き運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の全体会議には、施設長、管理者も出席し意見交換を行っている。日頃からコミュニケーションを図るように心がけているが、不満や苦情は言いがたい部分もあるので、把握出来ない部分もある。	全体会議に職員の意見や要望が出しやすいように、日頃のコミュニケーションを大切にしてきている。管理者に気軽に相談できる機会を設けている。職員の緊急の勤務交代も話し合いでスムーズに行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	上司面接の機会を儲け、意見や要望が言える場を設けている。資格習得に向け勉強会開催等の支援も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>施設内外の研修を受ける機会を確保し、又、グループホームにおいても月1回の勉強会を実施して、常にスキルアップに努めている。個々の目標設定に合わせて研修内容の紹介や参加を呼びかけている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内での研修会や部会等で情報交換や勉強会、相互研修の機会を設けている。グループホーム協議会の研修会にも参加して質の向上へ繋げている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に相談・面接時に本人の不安や思いを相談表に基づいて把握するようにしている。希望があれば、いつでも施設見学を受け入れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の困っている事・不安な事・思いを相談時にゆっくりと話しやすい環境作りに努めている。事業所としてどのような対応が出来るか等も話すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談を通して、家族のニーズを汲みながら必要に応じて、提案や前の事業所から情報を得たりして対応している。少しでも早く事業所に馴染んで頂くように工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	意識の中で「共に生活をする」気持ちで業務にあたっている。食事・洗濯・掃除等を一緒に行い、人生の先輩として季節の行事や郷土食作りの場面において学ばせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族会・運動会・運営推進会議等で、ご意見を頂く機会を作っている。面会時や月1回の山田の里便り等で常に情報交換を行なっている。事業所の行事等に参加頂き、日々のケア協力を頂いている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族の協力を得ながら、可能な限り外出・墓参り・電話・手紙・面会をして頂く様になっている。送迎支援や外出時の付き添い等に努め、外出支援を行なっている。</p>	<p>利用者の馴染みの店での買い物などに出かけている。来訪者には全職員が丁寧な対応を心がけ、電話は本人につないだりして、馴染みの友人・知人が気軽に面会できるように雰囲気作りをしている。家族の協力で墓参りや住まいの家の周りの親戚や知人に逢いに行っている。生活歴を把握して馴染みの関係がとぎれないように支援している。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>必要に応じて、職員が間に入りながら関係性を築けるように支援している。入居者同士の関係性に配慮した食事時の席や外出時の対応を行なっている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>入院を伴う退去や他施設への入居となった入居者の方でも、面会に行く等している。又、他施設へ移られてからも施設の行事等へ招待している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴・趣味・好み等・ご家族の協力を得ながら入居者の思いや意向の把握に努めている。日々の関わりの中からも小さな事でも拾い上げ事例検討会を開催し、把握に努めている。	利用者の思いや意向を表出できるように、食後のひとときや入浴中のリラックスしている時等、利用者と一緒に話をして意向や思いを把握するよう努めている。意思疎通が困難な利用者には、家族の面会時などで思いや意向の把握に努め、本人中心の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前相談時から、本人・ご家族・他機関から聞き取りを行い又、入居者・ご家族との日々の関わりの中からも聞き取るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中での気づきや入居者・ご家族からの要望を基に、個々の生活リズムを把握し、一人一人にあった生活が出来るように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者は日々の関わりの中で、家族には面会時や電話にて要望や相談を行い、毎月のモニタリング、半年毎の家族カンファレンスで見直しを行なっている。又、入居者の状態変化に合わせてその都度、介護計画を作成している。	利用者や家族の思いを聞き、介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、6ヶ月毎にカンファレンスを行っている。身体面や精神面の変化があった場合は、その都度、職員で話し合い、現状に合った介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の書き方は、昼間は黒ペンで夜間は赤ペンで日常的に記録に残している。又、排泄・食事量等も記録に残し、ご家族にも1ヶ月に1回は送付している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院・外出・外泊等、入居者やご家族の状況に応じて、臨機応変に対応を行なっている。突発的な体調変化の時には、協力医療機関・かかりつけ医の協力を得ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事（運動会・文化祭・十五夜・ふるさと祭り）への参加や見学を行なっている。地域のスーパーに行ったり、実習生・ボランティア等の受け入れも行なっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に、かかりつけ医の確認を行い、希望があれば主治医を変える事もある。ご家族が通院される場合には、現状を情報提供し（ケア連絡表・健康管理表）を渡している。訪問診療・往診時にも情報提供し相談している。	利用者や家族と契約の時点でかかりつけ医の確認を行い、希望通りに受診支援を行っている。家族が受診の協力をしている。家族ができない時は事業所で支援している。協力医療機関や歯科医など専門医の往診が定期的に行なわれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>グループホーム看護師や訪問看護センター・医師に必要な応じて協力を得ながら、入居者の体調管理を行なっている。些細な変化や気付いた事もすぐに看護師に報告し、適切な医療が受けられるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は、ケア連絡表を基に支援方法等を病院へ情報提供を行っている。入院中はご家族・主治医に確認しながら面会に出向き、経過の把握を行なう事で早期退院が可能になるように連絡を密にとっている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合の対応を、ご家族に施設として出来る事を説明し、主治医の意見も含めながら今後の方針について話し合っている。</p>	<p>重度化や終末期の指針があり、家族に十分説明し同意を得ている。事業所でできる事、家族の協力がどこまでできるかなど相談している。早い段階から家族や医療関係者などと連携し、職員も看取りが共有できるようにしている。安心して最後が迎えられるよう支援に取り組んでいる。看取りの事例がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>消防署での普通救急講習も9割の職員が受講し、実践力を身に付けている。又、年2回の消防署員立会いでの研修も実施して、すべての職員が対応出来るようにしている。急変、事故発生のマニュアルを作成し勉強会等も行なっている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、防災訓練を実施し、消防署・地域代表の方にも参加を頂いている。又、毎月、施設独自での避難、誘導、消火訓練も行なっている。</p>	<p>年2回、消防署の指導のもと防災訓練を実施している。毎月、水害・地震・救出等、自主訓練を行い、避難経路や避難場所の確認等も行っている。非常時に備え、身につくように色々な場面を想定している。訓練の時は近所や地域の人達も参加して一緒に訓練をして、意見や提案を聞いている。災害時の缶詰や乾麺・水などが備蓄されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>事例検討会を持ちながらケアを振り返り、ケアの確認・検討・プライバシー保護に努めている。トイレ誘導や食事の時にもさりげない声かけに努めている。</p>	<p>高齢者虐待防止委員会や安全管理委員会があり、人格を尊重することや尊厳と権利、プライバシーを大切に資質向上を図っている。言葉かけが馴れ合いにならないように、年長者として敬意を払っている。トイレ誘導時はさりげないケアに努めている。書類保管や情報収集等にも細心の注意を払っている。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日々の関わりの中より、本人の思いや希望を大切にし、職員間で情報を共有し本人が自己決定出来る様な個々に合わせて働きかけをしている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>すべてを入居者のペースで行なう事は困難であるが、出来る限り可能な範囲で気分や状態に配慮しながら、食事・入浴・午睡・入眠時間等、個別のケアに努めている。ご家族の協力を得ながら外出等も支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	入居者の生活習慣に合わせた支援をしている。自分で洋服を選ぶ事が出来ない時にはアドバイスしている。女性入居者は、化粧・マニキュアをされておしゃれをしている方もいる。訪問美容時にパーマをされる方もいる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みを把握し、日々の食事メニューに配慮し食欲がない時・体調不良時にはその時に合わせた食事を準備している。誕生日には入居者の意向を聞き献立に取り入れている。食事の下ごしらえや下膳等は一緒に行なうようにしている。	入居者の希望を聞きながら、朝食は好みに合わせてクロワッサンやスープ・ヨーグルトを準備したり、行事食や季節感のある物を取り入れたりしている。職員と一緒に、野菜の下ごしらえやつわなどの皮むきをしたり、配膳・下膳・後片付けなどを力量に応じてしている。レクリエーションの弁当や行事食を手作りして食事を楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の満腹感・食事量・水分量等を把握しながらその人の体調に合わせた支援を行なっている。食事や水分が十分に摂れない入居者方には、主治医に相談し栄養補助食品を処方してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・義歯洗浄・うがい等の口腔ケアの支援を行っている。夕食後は、義歯をポリドントにて消毒を行っている。必要時には訪問歯科を定期的に受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターン・排泄量を把握し、個々にあったトイレ声かけをしている。又、リハビリパンツやパッドへの移行検討等もその都度、行なうようにしている。	排泄の自立をめざし、排泄パターンを把握して、排泄チェックや習慣から、トイレへのさりげない声かけと誘導を行っている。昼間は布パンツを使用している。失禁時の羞恥心や周囲に気づかれないように配慮し、排泄の自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の豊富な食材等を献立に取り入れたり、体操や散歩・外出等、体を動かす機会を設けている。便秘が3日～5日続いた場合には、主治医に相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的に、入浴日は決まっているが、なるべくその日の気分や体調に合わせて入浴を行なっている。又、入浴を拒否される方は、時間を置いたり他の職員が再度、声かけして入浴が出来るように支援している。	入浴日は決められているが、利用者の要望があれば柔軟に対応している。ゆずやしょうぶを風呂に浮かべて、季節感ができるようにしたり、入浴剤等も使い、こころよい入浴を支援している。入浴をいやがる利用者には、職員を交代して誘ってみたり、時間をずらして声かけしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、安眠出来るよう、日中の生活リズムを整える事が出来るように支援している。午睡の時間も取り入れたり、夜間、起きて来られた時には一緒にお茶を飲んだりして、その方の話を傾聴したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報ファイルを作成し、服薬中の薬や内容がすべての職員がわかるようにしている。入居者の状態変化で、薬が変更になった時には必要に応じて主治医とも連携を図るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の喜びは個々で違う為、その方の得意分野を發揮出来る様に食事の後片付け・モップかけ・洗濯物たたみ等をお願いしている。必ず感謝の言葉も伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>季節や天候を考慮しながら可能な限り、外出の機会を設けている。又、月1回、ご家族も交えて戸外レクリエーションにも出かけている。頻繁に外出を望まれる方には、近くのスーパーに買い物に出かけたりしている。</p>	<p>天気や体調のいいときは、近隣の散歩をしたり、近くのスポーツランドに出かけている。近くにスーパーマーケットがあり、買い物に出かけている。家族と墓参りや病院受診の帰りに外食を楽しんでいる。毎月ドライブを兼ねた戸外レクリエーションや物産館での買物・食事等、戸外に出かけるよう支援している。家族が行けない時は、事業所で外出支援をしている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>日常、管理出来ない入居者は、事務所で管理し買い物に出かける際には、財布を持って買い物して頂いている。入居時にご家族と相談して少額を持っている方もいる。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族や大切な人が手紙のやり取りや電話をかけることができるように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間においては、入居者の方々が混乱されないように席等にも十分に配慮している。室内の温度・湿度管理についても一人一人衣服で調整をしている。</p>	<p>ホールはエアコンの冷暖房の風が直接当たらないように工夫がされ、温・湿度計が壁にかけてあり、エアコンや加湿器での調整ができています。中庭の光も加わり明るい。畳のスペースもある。テーブルやソファが置かれ、季節の花が生けられています。壁には入居者と職員が一緒に作った季節の張り絵や全員の写真が貼ってある。利用者がテレビや音楽を聴きながら自由に過ごせるよう工夫がされている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>畳スペースやテレビコーナーには、ソファや長椅子を配置している。居間・食堂が一体的な作りになっているが、中庭があり季節の花々を植えて落ち着いてくつろげるスペース作りに工夫している。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族や入居者と話し合いながら、馴染みの寝具・仏壇・タンス・アルバム等を持ってこられ、本人が居心地良く、過ごされるように工夫している。	自宅で使っていた小物や家具・家族の写真・位牌・仏壇・テレビ・ギター・自作の絵・時計・毛布・書道等、馴染みのものが置いてあり、ハンガーには衣服やマフラーがつるされ、帽子かけに帽子がかけられ、家族と話し合い自宅に近い状態で落ち着いた居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の身体状況に合わせ、手すりや玄関スロープ等設置している。1人1人のわかる力を見極め、トイレや居室等にも表札や写真・目印等をつけて分かりやすくしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない